



白地着て筋金入りのへそ曲り

白井道義

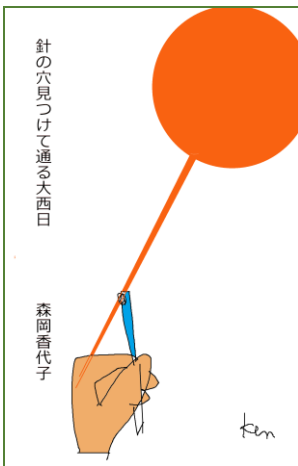
暑い季節は、白色の衣服が涼やかでいい。白地は夏の和装ですな。筋金入りは本格的なへそ曲りというわけだ。「浴衣着て」ではさまにならない。



逢ひ引きの蚯蚓しの字に干涸びて

寿命秀次

雨の後は土中に水が入り込んで空気が減り、酸欠になるので、蚯蚓は地上に出て来るのだとか。土中でゆっくり逢えばよかったが油断したのだ。



針の穴見つけて通る大西日

森岡香代子

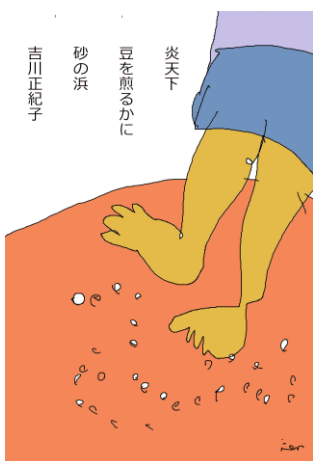
大西日はどんな所だろうと見逃したりはしない。最近狭い所はちょっと苦手なんてことはないのだ。そこに大西日の存在感というものがある。



なめくぢり進む原理が解らない

棕本望生

なめくじは「足波」と呼ばれる筋肉で動く。滑りをよくして、皮膚を守るために粘液を出しながら進む。しかし、原理が解らないからこそ詩になる。



炎天下豆を煎るかに砂の浜

吉川正紀子

炎天下の砂浜は裸足では歩けない。焼けたフライパンの上に乗るようなものである。豆を煎るかにはよくぞ言ったりだね。熱消毒にはいいかもね。



生ビール一杯二杯が五六杯

細川岩男

簡単なつくりの句だが、分かりやすく共感と呼ぶ。その場の雰囲気もよく出ている。日常のヒトコマが言葉のスナップ写真として切り取られた。